

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成 25 年 2 月 21 日 (2013.2.21)

【公開番号】特開 2011-185340 (P2011-185340A)

【公開日】平成 23 年 9 月 22 日 (2011.9.22)

【年通号数】公開・登録公報 2011-038

【出願番号】特願 2010-50141 (P2010-50141)

【国際特許分類】

F 1 6 J 12/00 (2006.01)

C 0 8 L 81/02 (2006.01)

【 F I 】

F 1 6 J 12/00 C

C 0 8 L 81/02

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 1 月 7 日 (2013.1.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ポリフェニレンサルファイド樹脂 (A) 100 重量部に対して、扁平断面ガラス繊維 (B) 5 ~ 120 重量部を配合してなることを特徴とするポリフェニレンサルファイド樹脂組成物からなる耐圧容器。

【請求項 2】

前記扁平断面ガラス繊維 (B) の平均扁平率が 2 ~ 10 のガラス繊維である請求項 1 記載の耐圧容器。

【請求項 3】

前記ポリフェニレンサルファイド樹脂組成物が、ポリフェニレンサルファイド樹脂 (A) 100 重量部に対して、エポキシ基、アミノ基、イソシアネート基、水酸基を有するシラン化合物 (C) を 0.1 ~ 5 重量部配合してなることを特徴とする請求項 1 または 2 記載の耐圧容器。

【請求項 4】

前記ポリフェニレンサルファイド樹脂組成物が、ポリフェニレンサルファイド樹脂 (A) 100 重量部に対して、熱可塑性エラストマー (D) 1 ~ 30 重量部を配合してなることを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の耐圧容器。

【請求項 5】

前記ポリフェニレンサルファイド樹脂 (A) のクロロホルム抽出量が 1.8 wt % 以下であることを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれか記載の耐圧容器。

【請求項 6】

前記熱可塑性エラストマー (D) が ポリオレフィン系熱可塑性エラストマー、ポリスチレン系エラストマー、ポリアミド系熱可塑性エラストマー、ポリウレタン系熱可塑性エラストマー、およびポリエステル系熱可塑性エラストマー から選ばれる少なくとも 1 種であることを特徴とする請求項 1 ~ 5 のいずれか記載の耐圧容器。

【請求項 7】

内部圧力が 250 kPa 以上、温度が 180 ~ 230 の環境で使用する請求項 1 ~ 6 のいずれか記載の耐圧容器。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明は、かかる課題を解決するために鋭意検討した結果、次のような手段を採用するものである。

(1) ポリフェニレンサルファイド樹脂(A) 100重量部に対して、扁平断面ガラス繊維(B) 5～120重量部を配合してなることを特徴とするポリフェニレンサルファイド樹脂組成物からなる耐圧容器。

(2) (1)の扁平断面ガラス繊維(B)の平均扁平率が2～10のガラス繊維であることを特徴とする(1)記載の耐圧容器。

(3) 前記ポリフェニレンサルファイド樹脂組成物が、ポリフェニレンサルファイド樹脂(A) 100重量部に対して、エポキシ基、アミノ基、イソシアネート基、水酸基を有するシラン化合物を0.1～5重量部配合してなることを特徴とする(1)または(2)記載の耐圧容器。

(4) 前記ポリフェニレンサルファイド樹脂組成物が、ポリフェニレンサルファイド樹脂(A) 100重量部に対して、熱可塑性エラストマー(D) 1～30重量部を配合してなることを特徴とする(1)～(3)のいずれかに記載の耐圧容器。

(5) ポリフェニレンサルファイド樹脂(A)のクロロホルム抽出量が1.8wt%以下であることを特徴とする(1)～(4)のいずれかに記載の耐圧容器。

(6) (4)の前記熱可塑性エラストマー(D)がポリオレフィン系熱可塑性エラストマー、ポリスチレン系エラストマー、ポリアミド系熱可塑性エラストマー、ポリウレタン系熱可塑性エラストマー、およびポリエステル系熱可塑性エラストマーから選ばれる少なくとも1種であることを特徴とする(1)～(5)のいずれか記載の耐圧容器。

(7) 内部圧力が250kPa以上、温度が180～230の環境で使用する(1)～(6)のいずれか記載の耐圧容器。